

黎明館常設展示場の歩み

－ 展示解説員の視点から －

帆 北 智 美

はじめに

鹿児島県歴史資料センター黎明館が昭和58年10月に開館して、本年度で34周年を迎えた。黎明館では、県内外の来館者に向け、鹿児島の歴史・文化を企画展や企画特別展、講演会等を開催し、活動に取り組んできた。黎明館の行う事業は多岐にわたり、これからも多くの来館者に地域教育や生涯学習の場として活用され、情報発信の場としても役割を果たしていきたいと考えている。

これまで黎明館の活動の歩みの中で、常設展示場にいる展示解説員について、存在や活動を御存知だろうか。展示解説員は、平成8年のリニューアルオープンを機に、来館者の求める情報や知識など様々な利用のニーズに応えることを目的として、展示解説員制度を導入し、6名が配置された。平成23年度には、開館時間の延長に伴う措置として7名体制となり、現在に至る。

主な業務は、常設展示場にて待機し、来館者の要望に沿いながら展示資料の解説を行ったり、質問に答えたりと様々な案内を行っている。来館者が気軽に質問や会話がしやすく、展示解説員一人一人が黎明館の顔として、またお客様にとって身近な存在であるように丁寧な対応を心がけ日々業務に臨んでいる。

今回は、展示解説員の取り組みや諸問題・課題について整理し述べてみたい。

第1章 展示解説員の活動

展示解説員の主な業務として挙げた常設展示場での業務中には、様々な来館者の方とお会いすることができ、貴重なお話を伺う機会に恵まれることである。中には、たくさんのことを考えさせられる場面にも遭遇する。

来館者がお持ちの情報や知識の量は計り知れないが、直接会話をしていく中で、どんなことに興味を持ち、知りたいと望んでいるのかは、だいたい分かってくる。ただし、展示解説員がそれに応えうる情報と知識を必ずしも持ち合わせているとは限らない。その為に、展示解説員の対応力向上を図る様々な研修を行っている。その中の代表的な研修について、ここでは紹介する。

まず、館外での研修として、休館日を活用し、現地を訪ねて史跡や実物資料に触れる現地・市内研修を実施している。ねらいとしては、実際に現地に赴くことで得られる臨場感溢れた解説を目指している。学芸専門員に引率を依頼し、研修資料の作成から経路までの組み立ては、展示解説員が準備し、これまでに平成9年から平成28年まで実施している（表1）。

平成30年度は、西郷隆盛の大河ドラマ放映に関連しての現地研修を検討中である。

表1 各年度別研修実施表

実施年度・月	研修地（方面）	研修場所・内容
平成 9年度 11月	薩摩川内・長島方面	脇本古墳群・温之浦古墳群・白金崎古墳・指江古墳・加世堂古墳・小浜崎古墳群・鬼塚古墳
平成10年度 6月	始良・国分・志布志方面	岩剣城・平松城・隼人塚・高隈城・舞鶴城・志布志城・大慈寺・横瀬古墳・薩摩造船所・廻城
平成11年度 10月	加世田・坊津	和与状と下地中分・竹田神社・島津日新公・大地蔵塔・武家屋敷（加世田）・梶ノ原遺跡・上加世田遺跡・鑑真・歴史民俗資料館・津口番所・一乗院・上人墓・森吉兵衛屋敷跡
平成11年度 1月	熊本県・田原坂・熊本城方面	西南戦争の発端, 熊本城の攻撃・田原坂の激戦について・城山の陥落と戦後の状況・西南戦争のエピソード
平成12年度 7月	知覧・山川・指宿方面	草野貝塚・成川遺跡・枚聞神社・橋牟礼川遺跡・水迫遺跡・弥次ヶ湯古墳について・ミュージアム知覧・帖地遺跡
平成12年度 1月	国分・鹿屋・大崎・志布志方面	大正溶岩・平野国臣の歌碑・林芙美子の文学碑・隼人塚・鹿屋航空基地資料館・王子遺跡・横瀬古墳・志布志内城・上野原遺跡
平成13年度 5月	宮崎県・佐土原・西都・都城方面	佐土原城跡歴史資料館・鶴松城・伊東氏について・佐土原島津家・西都原古墳群・都城島津家・西南戦争
平成13年度 11月	鹿児島市内・北薩方面	花尾神社・出水武家屋敷・野間の関跡・木牟礼城・島津五廟社（島津氏五代の供養塔）・感応寺・泰平寺跡
平成14年度 6月	薩摩川内・出水方面	薩摩国分寺跡・久見崎軍港（義弘と朝鮮出兵）・白金崎古墳・小川内関所・蒲生城跡・祁答院と島津歳久
平成14年度 2月	加治木・国分方面	南浦文之の墓・曾木家の門・隼人塚・鹿児島神宮・大隅国分寺跡・上野原縄文の森・栗野町稲葉崎の供養塔群

平成16年度 11月	種子島方面	日本甘藷栽培初地之碑・雄龍岩, 雌龍岩・ 日本一の大ソテツ・古市家住宅・南種子町 郷土館・種子島宇宙センター・種子島開発 総合センター・広田遺跡・メヒルギの自 生・赤尾木城・種子島時堯と鉄砲伝来
平成17年度 10月	鹿児島市内・北薩方面	徳重神社・一字治城跡・沈壽官窯・羽島 (薩摩藩英国留学生)・泰平寺跡・薩摩国 分寺・感應寺・木牟礼城跡・出水武家屋 敷・花尾神社
平成19年度 5月	湧水町・志布志方面	栗野町稲葉崎の供養塔群・志布志内城・横 瀬古墳・王子遺跡・大正溶岩・平野国臣の 歌碑・林芙美子の文学碑・隼人塚
平成20年度 9月	川辺・知覧・坊津方面	清水磨崖仏・知覧城跡・赤石鉾山・松之尾 遺跡・近衛屋敷跡・津口番所跡・双剣石 ・森吉兵衛屋敷跡(密貿易屋敷跡)・一乗 院跡・鑑真和上
平成21年度 6月	始良・国分・岩川方面	白銀坂・平松城跡・岩剣城跡・島津義弘居 館跡(御屋地跡)・南浦文之墓・加治木城 跡・曾木家の門・官軍墓地・岩川八幡神 社・大隅国分寺跡・隼人塚・鹿児島神宮
平成22年度 6月	鹿児島城周辺・磯・上町方面	私学校跡・琉球館・薩英戦争砲台跡・五石 橋・東郷平八郎・東福寺城跡・上町五社・ 本立寺跡・若宮神社遺跡・大乘院跡・清水 城(鹿児島本城・橋之口城)・奈良原助八 の碑・福昌寺跡・内城(御内・本御内)・ 大龍寺・森有礼・今和泉島津家屋敷跡・南 洲墓地・伊地知李安・鶴丸城跡
平成22年度 11月	始良・北薩方面	栗野町稲葉崎の供養塔群・出水武家屋敷・ 島津五廟社(島津氏五代の供養塔) 薩摩国 分寺跡・泰平寺跡・羽島(薩摩藩英国留学 生)
平成23年度 5月	鹿児島市内・草牟田方面	夏蔭城跡(夏蔭公園)・陸軍火薬倉庫跡・ 玉里邸庭園・興国寺跡(長沢鼎・高崎五郎 右衛門・伊地知李安・日当山侏儒)
平成23年度 10月	日置市美山・伊集院方面	吉富山大乗寺跡・日置八幡神社・小松家墓 地(圓林寺跡墓地)・鬼丸神社・吉利小学 校・元外相 東郷茂徳記念館・沈壽官窯

平成25年度 6月	桜島・国分方面	桜島ビジターセンター・黒神埋没鳥居・上野原縄文の森・霧島市国分郷土館・大隅国分寺跡・鹿児島神宮・隼人塚史跡館
平成26年度 6月	垂水・志布志方面	大慈寺・津口番所跡・志布志城
平成26年度 12月	鹿児島城下・上町方面	西郷終焉の地、南洲墓地・福昌寺・本立寺・多賀山・東郷平八郎銅像・森有礼生誕地・大竜寺
平成27年度 6月	宮崎県・都城方面	平田かくれ念仏洞跡・島津稲荷神社・有村次左衛門寓居跡・祝吉御所跡・都城島津邸・都城島津伝承館・天長寺・都城県庁跡
平成27年度 11月	黎明館周辺・中央駅周辺・西田方面	鹿児島城跡・天璋院銅像・薩摩義士碑・私学校跡・鹿児島県県政記念館・加納知事頌徳碑・旧鹿児島県庁舎正面門・下町札辻跡・明治の市庁前元標・西郷隆盛銅像・小松帯刀像・明治の県庁前元標・造士館・演武館跡・医学院跡・ザビエル滞魔記念碑・平田靱負銅像・調所広郷邸跡・木村探元誕生地・甲突川五石橋（西田橋）・町門跡・若き薩摩の群像・西郷南洲翁宅地跡・維新ふるさと館・大久保利通生い立ちの地・西郷隆盛・従道誕生地・大久保利通銅像・黒田清輝誕生地・天文館跡の碑・旧考古資料館・探勝園・島津斉彬・久光・忠義像
平成28年度 11月	加世田・坊津方面	竹田神社・一乗院・上人墓・番所跡・双剣石・森吉兵衛屋敷跡

現地研修の様子

写真1 平成26年6月志布志内城にて



写真2 平成26年12月福昌寺にて



写真3 平成27年11月維新ふるさと館にて



また、来館者の質問に対応した際の対応記録を基に、質問集というファイルを作成しているが、この質問集についても、平成11年から内容が蓄積されたもので、回答について10年以上経過しているものがあつた為、平成24年～25年にかけて、これまでの過去の質問の回答内容を各時代・分野ごとに担当者を割り振り、書籍で調べ直したり、学芸専門員による見解を聞いたりして、見直し作業を行い改訂した（表2）。

表2 質問集内容例

(1) 旧石器文化	
Q	黒曜石について 1 何故光っているのか。 2 白い石も黒曜石か。
A	1 マグマが急速に冷却してできた天然のガラスの一種であるため、光っている。 2 黒曜石は透明または不透明な黒色が一般的だが、全体が灰白色を呈する大分姫島産などもある。 参考文献『日本考古学事典』三省堂 2002年 288頁

この他にも、来館者からの質問の多い展示資料や大型模型について、元々配布用として活用していた資料を見直し、新たに配布資料や案内マップを学芸専門員と検討し作成している。平成27年度には、2種類の大型模型についての配布資料が完成し、実際に小中学生や一般向けに配布し活用している。

さらに、年に数回開催される企画展や企画特別展についての担当学芸専門員による研修を受けたり、展示場において、各セクションとの連携を図る為、話し合いを行ったりと情報共有をしている。

第2章 諸問題点・課題

展示解説員の様々な取り組みについて先述してきたが、来館者に常設展示場の見どころを堪能していただく為の工夫を凝らす中で、展示場では、様々な問題や課題が浮き彫りになる。

来館者を増やす為の取り組みの一つとして、毎週日曜日には、1時間で常設展示場の案内をする

「ウィークリー・ミュージアムガイド」を隔週で歴史コースと文化コースに分け、交互に開催している。歴史コースの内容は、常設展示場の1階からテーマ展示として、原始・古代、中世、近世、近・現代と鹿児島県の歴史の流れを概観できるように解説し、2階の鹿児島県の特徴ある歴史までを紹介する。文化コースの内容では、2階の民族部門や3階の美術・工芸部門について紹介している。

初めて常設展示場に入った来館者にも、分かりやすく、そして参加しやすい1時間で実施しているが、希望者やリピーターの一定の参加者確保には至っていない（写真4、5）。

写真4 ウィークリー・ミュージアムガイド文化コースの解説風景



写真5 ウィークリー・ミュージアムガイド文化コースの解説風景



展示場の撮影について、平成27年には、見学風景やジオラマなどの撮影を許可するとした、具体的な場所の表示や対応を行ってきているが、撮影についての問い合わせや動画の撮影などの禁止事項について、来館者に分かりづらかったり、浸透していなかったりと対応に追われてしまっている現状がある。

また、3階の体験学習室では、展示場の1階から3階まで学習してきたことをより深めてもらう

為、実際に体験できる学習の場として設置されている。主に、小学生から中学生や親子連れの来館者が多く利用する。内容は、弥生時代の衣服である「貫頭衣」を着たり、鎧・兜を着けてみたり、薩摩琵琶やゴッタン、三味線を弾く体験や昔からある玩具のお手玉や駒、紙芝居や民俗の農具や仮面等がある。体験学習室は、写真撮影もでき、無料のコーナーであるが、3階の展示場奥にある為、場所が分かりにくい。また、屋内であることから道具の利用も限られてしまう（写真6, 7, 8）。年に3回程、体験講座も開催している。中でも夏休み期間中に開催する「薩摩焼をつくろう」では、講師を招き、粘土でオリジナルの焼き物を作る体験に、毎年多くの事前申込みがあり、好評を得ている。12月に開催された「正月を楽しもう」では、講師の指導を受け、しめ縄や稲穂飾り作りを行ったが、体験講座の内容の変化も課題の一つである（写真9, 10）。

これまでに挙げた問題や課題は、日々の業務の中のほんのわずかな一端であり、展示解説員は、来館者が黎明館にどんな対応や事柄を望んでいるかを察知し、日頃の業務に活かしていく必要がある。

写真6 体験学習室正面入口



写真7 体験学習室内の様子



写真8 体験学習室道具関係



写真9 平成29年体験学習講座「薩摩焼をつくろう」活動風景



写真10 平成29年体験学習講座「正月を楽しもう」活動風景



おわりに

これまでに述べてきた、展示解説員の活動や展示場における問題や課題の一部は、今後も展示解説員一人一人が、多くの来館者と接する中で、活動の幅を広げたり、解決の糸口を見つけたりし、多様に変化させていくことが必要であると感じる。

常設展示場にて、一人で監視していると、お客様から「寂しくないか」「展示資料が怖くないか」など素朴な疑問も受けることがある。私自身としては、常設展示場の多くの資料を古き良き友人たちのような、先輩たちのような存在として捉えている。資料というものは、私たちの生活の中にとけ込んでおり、気づかぬうちに忘れ去られているもの、普段は静かに存在しているだけなのに、先人たちのことを知りたいと思った時には、いつでも様々なことを語りかけてくれるかのように答えやヒントを与えてくれる。そんな展示資料と共に、これからも展示解説員は、学芸専門員とも違う目線で来館者にとってより身近な存在として求められた業務に応えていきたい。また、今後も学芸専門員と共に来館者のニーズに応えていけるよう、展示解説員の在り方について館内でも議論を交わしながら、当館を利用していただく来館者に貢献していきたいと考える。

(ほきた ともみ 本館展示解説員)